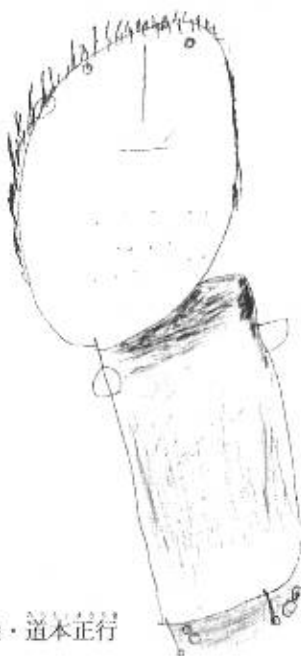


## ピースクラブ通信

No. 5

発行 社会福祉法人・ピースクラブ  
 〒556-0014 大阪市浪速区大国一丁目1-1  
 住所 住友ビル  
 TEL & FAX 06-66647-2077  
 連絡先  
 Eメール peaceclub@2.dion.ne.jp

## ジュンジュンちんちん



岸本 隆

絵・道本正行

先月末の給料日のこと、いつもピースクラブ中を鼻歌を歌いながらピョンピョン飛び跳ね回っているピョンピョン娘こと木村あかねが、いつものようにフンフン・ランランと鼻歌まじり

でひらひらと僕のまわりを回りながら「なあなあ岸もっちゃん、岸もっちゃんて給料いくらもらってんの？教えて教えて教えて！なあなあいくらもらってんの？教えて！」と聞いてきた。

「なんでそんな事、聞くん？プライベートなことだから答えたくないわ」との僕の答えも彼女の耳には届かないらしく、「なんで、ええやん！岸もっちゃんだって私の給料の額知ってるんやろう？なあなあ教えて、教えて！教えて！おい岸本教えろ！」と食い下が

る。「おい岸本、キスしたるか！」「おい岸本、抱きついたらるか！」。得意の色気攻撃も交えながら、額を聞き出そうと迫るピョン娘。「岸もっちゃんって何歳や？」「48や」「そうかあ、私のお母さんと同い年やなあ！そんなら〇〇円ぐらいもらってるんか？」「そうやなあ、それぐらいやな」の答えに納得したのか、ヘンヘンと一段高

く嬉しそおに跳ねた。で、着地と同時に僕の肩をどんと叩きながらおっしやいました「なあ、なあ、岸もっちゃんてあんまり仕事してないのに、なんでそんなに給料もらえるん？」「えっ！……」岸もっちゃんの仕事ってなんなん？岸もっちゃんって何してるん？なんでそんなにお金もらえるん？」「ピョン娘の思わぬ辛らつな物言いに絶

## ピーコラ

キューバの旅の裏話  
 ▼キューバ最初の夜はホテルの皆での夕食の後、文豪ヘミン

グウェイ行きつけの店でお気に入りだったダイキリというカクテルを味わい、砂糖キビ刈りに参加したメンバーからキューバでの熱い思い出を聞かせてもらいました▼その席上、早速中村はキューバの国家財産であるコップを落として割るは、さゆりさんはホテルまでの帰り道、2度も段差で転ぶわで、ドタバタの旅の予感です。以後さゆりさんは、春さんに、キューバに電動車いすで来たことを言われ続けました(ああ、運転が下手で、初めからあきらめてほんとうによかった！)  
 ▼報告には書けないなかの珍道中でした。(普)

句！「ううん！そうやなあ」と言ったときりシドロ・モドロの僕をその場に置き去り、何事も無かったかのようにフンフンと横飛びで何処かに行ってしまった。

ピョン娘あかねはきつと、不思議というか疑問に思っているんだろう、

「このおっちゃん私と一緒にピョンピョン跳ね回ったり、風呂入ったり温泉行ったり、遊んでばかりで仕事なんか全然してないやん」と。「私らと同じことして遊んでるようなおっちゃんが、なんで私より多くお金をもらうんやろう・・・？」

「時々、ベットで横になってる実里と一緒にゴロゴロしたりしてるしなあ！」

「おい！岸本、ちゃんと仕事しいや」と思ってる

やろうな。

翌日ピョン娘に、僕たちの仕事は、皆が「明日もピースクラブに行こう！」と思ってくれるよう、毎日、楽しく過ごせるようにするのが仕事だと思っ

「あつ、その一言でかたづけられてしまった。「くっそ！」「あのなあ……」。「私これから瓶ちゃん」と風呂掃除やねん、じゃバイバイ！」とヒラヒラ風呂場に消えた。またも置き去り、これってなんか変!?」

そうこうしてたら「Uがパトカーに乗って警察と帰ってきたぞ！」「Tがしげもく拾いながら新今宮の方に歩いて行ったぞ！」「Mが便を漏らしたぞ！」「Tの姿が見えないぞ！」次から次、矢

継ぎ早にツワモノどものやらかす事々が押し寄せてくる。これら事々の展開は毎日の事。だからピョン娘の様にピョンピョン、ひらひら、ゴロゴロ楽しまないとやってられないのさ。「分かるか！ピョンひら娘」と独り言の僕

## カリブ海に浮かぶ国、キューバの旅

の横を、風呂掃除を終えたらしいピョンひら娘「おい、岸本、抱きついていいか？」と通り過ぎて行った。

さあて、今月末の給料日ピョンひらはどう仕掛けてくるのだろう・・・!? 楽しみだ。

カリブ海に浮かぶ国、キューバに行ってきた。1962年、あわや米ソの軍事衝突かと思われたキューバ危機という言葉が、当時12歳の私の記憶にも残る国です。その後、米国による経済封鎖やソ連の崩壊にも関わらず、独自の道を歩む「まっとうな国」のひとつと言います。今回は、1970年から72年にか

けて、日本から砂糖キビ刈りの支援に行った当時の「若者」たちが、一昨年、共に汗を流したキューバのメンバーを日本に招き、今度は日本からキューバを訪れる「友好の旅」に、かじさん、さゆりさん、春さん、中村の4名のほか、大阪からも数名が同行させてもらったものです。

日本からキューバへは

直行便がなく、関空組はカナダのバンクーバーから国内線に乗り、トロントのホテルで成田組と総勢20名が合流し、一泊。時差の関係で11月1日の午後5時に出発。その日の午後4時ごろハバナ空港に着きました。空港からハバナ市街までの道は、何か宮古島を思い出させるなつかしい風景です。

2日目、朝食前にホテルの周りを散歩しました。行き交う人たちの肌の色ののように、様々な様式の建物が見られます。そしてよく言われるように、50年、60年代の車がまだ現役で走っていました。

その日は、ICAP（対外友好の窓口）を訪問、担当官から現在のキューバについて学び、あとは市内観光。夜はトロピカ

ルなショーを楽しみ、翌日はいよいよ本題のサンタクララへ。

ハバナからサンタクララまでは約3時間半。お昼にその地域のICAPに到着。そこで当時のメンバーに迎えられる。30数年ぶりの再会という人もありました。夕方から街の博物館で、歓迎会と砂糖キビ刈りや当時の様子を写した写真展の開会式が行われ、それぞれの挨拶の中で、先進国と言われる日本の釜ヶ崎の状況の報告が、大阪の仲間からありました。

その会場に車いすの若い女性がいました。今度の旅で、地元、と思われる車いすの人に出会ったのは2人だけだったと思います。その女性は大学で社会学を学んでいるそうで、さゆりさんが道路の段差のことを尋

ねると、外出のとき援助するプロジェクトがあるし、街の人も助けてくれる。大学でも自由に学べる、との答えでした。



ゲバラの霊廟の前で

てしまう、腐った資本主義に首までつかって大切なものを失くしてしまっている、中途半端な自分を感じてしまうのです。

別な折、日本のメンバーからの道沿いに看板が少ないのはなぜかという質問に、「お金がないからです。優先順位が低いのです」と率直な答え。そんなとき、つい「そうなんだろうな！道路の段差もだよな！でもときには一人で自由に街を歩きたいよなー！」と思っ

4日目の朝は昨夕からの雨の中、チエ・ゲバラの霊廟へ。ゲバラは観光客用のグッズなど、死してもキニーバを支えています。その雨も昼にはあがり、海辺のレストランで昼食。サグアという町の博物館2つをはしご。サグアの若者たちが車いすを押してくれました。

【これからのスケジュール】

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 12月7日 (木)            | 宇城先生ワークショップ   |
| 12月12日 (月)           | 大阪市監査         |
| 12月15日 (金)           | 蟹カニツアー日帰り組    |
| 12月17日 (日) ~ 19日 (火) | 東京ディズニーランドツアー |
| 12月20日 (水) ~ 21日 (月) | 蟹カニツアーお泊り組    |
| 12月25日 (月) ~         | 順次大掃除         |
| 12月29日 (金)           | 忘年会           |

新年は9日からお仕事を始めます。

\*なお、これまでこの通信の発行は不定期でしたが、流れも出来てきましたので、来年からはふた月に1度の発行の予定しています。次は新年1月中頃の予定です。

夜は、翌日の夕方から帰国する組と、あと数日残る組とに分かれるので、お別れ会。食事のあとホテルのテラスで、満月に近い月がアメリカカネ木の木に傾くまで語り合い、サルサを踊っていました。

5日目、サンタクララの医療施設を訪ね、この旅のメンバーが日本から贈った中古の救急車とも再会しました。30年来、日本キムチバでこうした交流が続いていたのです。それから世界に知られるキムチの有機農法を見学したあと、居残り組みと分かれて再びハバナのホテルへ。

その夜はホテルの食事はエスケープし、夜な夜な街をリサーチしていた春さんと2人、旧市街のレストランで食事をしました。春さ

んの持論、旅は他人の火を借り、レストランの壁一面に書き込まれた来店者のサインに、名前を連ねてきました。

そのあと、帰国組のメンバーはサルサで有名なお店で最後の夜を過ごし、翌日の午後、ハバナ空港を立ち

## ピースクラブは故郷のよう

朴 会真

来た道をたどって9日の夕暮れに閑空に到着。長いと思っていた9日間の旅もあつという間という感じですが、思いがけずキムチバを訪れる機会を作っていた。「友好の旅」のメンバーの方々に、心から感謝です。(報告・中村晋作)

今頃の韓国は、多分、冬中食べるキムチを漬けるために一番忙しい季節かも知りません。韓国的一般家庭では、いっぺんに今の季節にキムチを漬ける風習があります。

私が日本に初めて来たのは1992年の3月、今から14年前でした。韓国より約1カ月、季節が遅い気の

りの3年間の生活。暑さと寒さと虫に噛まれてコリゴリで韓国に戻りたい気持ちになつてしまいました。

でも1995年、ソウルへ戻つてから約5年間のソウル生活は、大阪で苦しかったことが不思議にもいい思い出のように感じられました。多分それは、食堂で一緒だった金井先生の紹介で多くの日本の方々との出会い・人との出会いが環境よりも深く印象に残つたお陰だつたと思われまます。

キムチは初めて日本へ来た時、金井先生に教えてもらいました。6年前、また大阪へ来るようになり、そして、今年の4月からキムチナードとピースクラブへ水曜日に寄らせてもらいました。

ピースクラブは韓国で行つ

てた「田舎教会」と雰囲気がとてもよく似ています。ピースクラブにいと、韓国の「田舎の家」にいる感じがします。そして、まるで故郷へ来た錯覚まで起こしてしまいます。

先月10月には、ソウルで簡単な手術を受けて帰つて来ました。なので何回しか行つていません。多分来年1月までは、休むようになると思いますが健康が与えられたら土曜日だけでも一緒に外出したいと思ひます。そしていつかは皆と韓国の江原道の田舎の家にも一緒に旅行したいと思ひます。人と人との出会い、与えられた出会いが今の私には一番大きい祝福と恵みに感じられます。その出会いのお陰で私は癒され、生かされていくからです。